

税理士パソコン活用実践講座
パソコンによる
デ - タ処理の見方・作り方

第 12 回
グラフ活用 A B C 分析編

税理士 田中一志

<http://www.asahi-net.or.jp/~ie2h-tnk>

グラフ作成 A B C 分析編

数字に強い税理士が総じて弱いのは表現力が伴うグラフ化でしょうか。グラフは一覧して問題点の把握に役立てることが出来ます。実社会でもグラフをよく使いますが、ただ漫然とグラフ化しているように見受けられます。なぜ、グラフを使うのか、どのように表現するのかについて検討していきます。

グラフの作成手順は P L A N D O S E E が必要になります。まず、グラフ化自目的の設定、データ検索、データ収集をして、第 2 段階として、データ加工とグラフ作成です。最後に出来上がったグラフの吟味をしてから顧問先に「提示」します。

グラフ化目的の設定は何のためにグラフを作るのかを初めにハッキリさせることです。目的は管理用、解析用、報告用の三つがあります。

管理用ならば、将来への予測なのか、予算と実績の対比なのか、

解析用ならば、全社なのか、部門別なのかの時系列変化や構成費割合か。商品等のなかに季節的变化や景気変動の影響があるのを分析するためなのか

報告用ならば、トップへの現状や予測を報告するためなのか、部下への叱咤激励に使うのか、

データ検索は必要なデータがどこにあるか

をつきとめ、探し出します。デ - タ入手の時期などをどのくらいにするか、

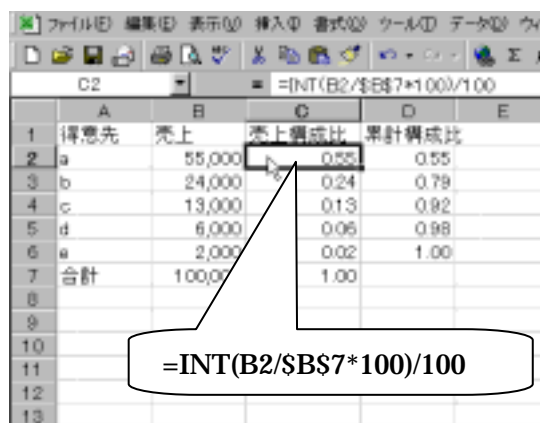
データ収集は客観的事実と主観的意見を区分してかたよらずに集めることです。

第 2 段階のデータ加工とグラフ作成を実際に進めてみます。

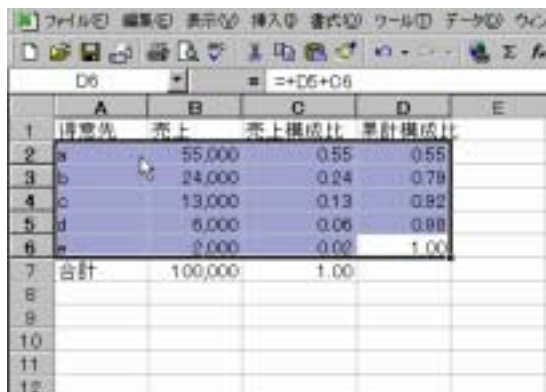
今回取り上げたのは、重点管理の対象項目に発見や選定によく用いるパレ - ト図について見てみます。パレ - ト図は A B C 分析に使います。

横軸に項目、縦軸に項目別の実数やその百分比をとり、項目ごとの大きさを示す棒グラフと百分比の累計を示す折れ線グラフを組み合わせたグラフをパレ - ト図といいます。

パレ - ト図の作り方はデ - タを大きい順に並び替えて、合計を 1 0 0 としてそれぞれの百分比を計算します。最後に百分比の累計を計算します。



	A	B	C	D	E
1	得意先	売上	売上構成比	累計構成比	
2	a	55,000	0.55	0.55	
3	b	24,000	0.24	0.79	
4	c	13,000	0.13	0.92	
5	d	6,000	0.06	0.98	
6	e	2,000	0.02	1.00	
7	合計	100,000	1.00		
8					
9					
10					
11					
12					
13					



パレ - ト図の応用分野は在庫管理や得意先の重点管理などにあらゆる分野に利用できます。パレ - ト線とは、イタリアの経済学者で、所得の分配についての研究のさいに百分比の累積比率を考案した V .パレ - トの名をとってつけられた線グラフのことをいい、ロ - レンツ曲線あるいは単に累積曲線といいます。



A B C 分析とはパレ - ト線によって、8 0 % ぐらいが項目で 2 0 % ぐらいを A とし、1 5 % ぐらいが項目で 3 0 % ぐらいを B とし、5 % ぐらいが 5 0 % ぐらいを C と三区分します。2 0 % の得意先で 8 0 % の売上をすとか、2 0 % の商品数で 8 0 % の在庫数量を占めるなど重要性の傾向を示すものです。



ユ - ザ - 設定、2 軸上の折れ線縦棒を選択。



「デ - タテ - プル」をクリックし、「デ - タテ - プルを表示する」とします。



「デ - タラベル」は「値を表示する」とします。画面では棒グラフの上と下に値が表示されて、A B C の % と重なり見えにくくなっています。これをなくしましょう。

